

SHIN CLUB 289

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「パイロン神宮前」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

「流行の発信地」との融和

若者に人気の街 原宿。その象徴ともいえるのが、竹下通りです。竹下通りには、最先端のファッションアイテムを扱うショップや日本初上陸のスイーツ店などが並んでいることで有名です。多くのショップは、オープンすると瞬く間に若者の間でムーブメントとなり、メディアでも取り上げられるように。外国人観光客からも注目を浴び、原宿が発信する「Kawaii 文化」が世界中で認知されていることは、今では周知の事実となっています。

歴史をたどると、この付近は江戸時代に武家屋敷や寺院が立ち並び、明治時代には華族の屋敷が多かったといわれています。1906年には山手線延伸により原宿駅が開業。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の空軍の兵舎「ワシントンハイツ」が建設されました。そのため、戦後の原宿には駐留軍等労働者向けの店舗が続々とオープンします。当時の日本人の目には、欧米の文化が新鮮でおしゃれなものとして映ったことでしょう。「ワシントンハイツ」は1964年に取り壊され、代々木公園などの施設となりました。

文化の発祥地として今なお人気を誇る原宿・竹下通り近くに誕生したのが、「パイロン神宮前」。設計を担当されたのは、上田智晴氏です。「もともと取り引きのあった辰さんのグループ会社から、『RCといえば辰、というくらいおすすめです』と紹介され、今回辰さんとタッグを組むことになりました」と上田氏は話します。

流行の最先端である原宿。「周囲にうもれないよう、原宿らしく、

カラフルで主張の強い建物にしてほしい」との依頼に、上田氏は、「主張をするのはテナントであり、設計者ではない」と考えました。そこで、あえて「設計者のエゴを出さないようにした」と振り返ります。

テナントが自由に原宿で自身のお店を表現できるように。「建築物には、設計者のエゴを出すことで評価されるものと、そうでないものがある。今回は後者だと判断しました」（上田氏）設計者がエゴを出すことで、かえってテナント側が展開しにくい店舗となってしまう、わずか数か月で退店をしてしまうこともあるといいます。今回、上田氏はそこに疑問を投げかけ、設計にあたりました。

完成した建物を見ると、主張は極力抑えられていますが、前面のガラスや内部の開放しコンクリート、屋上の木目など複数のテイストが融合。特に内側のガラスは内部から外の様子がよく見える仕様になっており、限られた空間に建物がひしめき合う竹下通りのなかで、開放感のある仕上がりです。飲食店やアパレルショップ、イベントスペースなど幅広いテナントを受け入れる、柔軟性の高い作品となりました。

昼間は学生が多い竹下通りですが、クラブのネオンサインによる魅力的な雰囲気が増す夜は、海外の方の姿が目立ちます。「パイロン神宮前」の外壁には、周囲に溶け込みつつも主張をする、ピンクのライトが。事業主の要望をうまく汲み取った、上田氏ならではの表現が垣間見えます。

バイロン神宮前



存在感を出すネオンの光

親和性の高い空間を

設計の段階ではテナントが決まっていなかったため、どのようなショップが入ってもいいように、自由度の高さを意識した。「バイロン神宮前」は、あくまでも舞台のような存在だ。舞台に立つ主演はテナントで、それぞれの店舗が独自の主張をして、原宿という地で目立てるようになることが理想だった。そのようななかで唯一の主張ともいえるのが、左右に配置したLEDライト。色を変更できるため、夏は青、秋はオレンジなど、季節に応じて楽しむことが可能だ。また、ショップのコンセプトに合わせたカラーにするのもいいだろう。やがて、夜の原宿を彩るネオンサインの一部になるかもしれない。

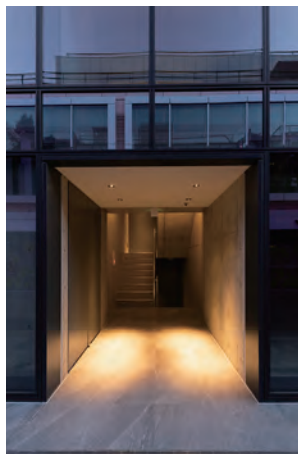
間取りで1番こだわったのは、階段だ。建物の中央に配置した階段室からは、店舗がよく見えるようになっている。さらにその奥に目を移すと、竹下通りを眺められる。このように内側から見ると、表へ向かってレイヤーをオーダーしていくようなプランニングをした。また、広い面積のバルコニーにも注目してほしい。内装とは違い、木目を採用した素材を使用し、温かい雰囲気を演出している。バルコニーを作るにあたっては、事前に外の世界との中間領域と定めた。「バイロン神宮前」で働く人々は、コンクリートに囲まれた店舗内では表の顔をするが、自然を感じるバルコニーでは裏の顔になれる。このような「2つの顔」を意識して、バルコニーを設置。また、屋上からは都心の真ん中にあるビルの敷地内でありながら、神社の境内から緑が見えるため、ここを訪れた方にとって癒しのスペースとなることを願っている。

バイロン神宮前に、設計者個人の視点はない。あくまでも、テナントやお客様など、「利用する方々から、どのように見えるか」という視点を大事にした。そして、最終的にはみなさんに喜んでいただくことが重要だ。そのような意味では、今回の仕事において、自分の役目は設計者ではなく、形のないサービスの提供者だと考えている。

(上田智晴氏 談)



1階テナント内部。外の様子がよく見える仕様になっている



アプローチタ景



2階テナント内部

構造：RC造
 規模：地下1階・地上3階
 用途：店舗
 設計：上田智晴アーキテクト／上田智晴
 竣工：2023年12月
 施工担当：山川・土屋（村山チーム）
 撮影：アック東京



3階バルコニー。あえて温かみのあるデザインに



屋上につながる階段室



屋上から見える境内の緑にほっと癒やされる

Tomoharu Ueda

今月は、「パイロン神宮前」の設計者、上田智晴氏にお話を伺いました。

— 1997年8月から、1年間海外に行かれていますね。設計者として修業されていたのでしょうか。

上田：実は、海外に旅立つ1年ほど前に、長い間おつき合いをしていた女性と別れてしまいました。ショックだった私は、いつまで経っても立ち直れずにいたんですね。あのころのように落ち込んだ経験は、後にも先にもありません。何も手につかず、「仕方がないから日本を出よう」と決心し、出発。そのような経緯でスタートした旅でしたが、予想に反し、建築について多くの学びがありました。

— どのような国や地域に行かれましたか。

上田：まずはピエナに入り、東ヨーロッパを回りました。チェコやハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、トルコなど。その後は、周辺の島を転々として、チュニジアからシチリア島に渡りました。それから、イタリア半島を北上してフランス、スペイン、ポルトガルと移動。予定を決めていなかったのも、いつも現地での日の宿を探しながら、気の向くまま旅を続けていました。旅の出来事については、笑話や感動話などネタがたくさんあるので、24時間あっても足りないくらいです（笑）

当時の日記や、建築物のスケッチをまとめたものを数年前に出版したので、そちらをご覧ください。旅の様子がより伝わると思っています。出版にあたりサポートしてくれた方々には、とても感謝しています。

— 海外での経験は、ご自身にどのような影響を与えましたか。

上田：1年という旅の間に、さまざまな建築物を見ました。「次はこの国のこれを見に行こう」と明確な目的地をあらかじめ決めていたわけではなく、観光本を読みながら、その場で行き先を決定していくような旅でした。そのなかでも、基本的に現代建築は見えておらず、古い建築物をメインに見ていましたね。ヨーロッパには、何千年も前に建てられたものがたくさん残っています。そのような建物を目の前にすると、建築の力強さを見せつけられているようで、自分の小ささを痛感したものです。人類史上何千年と続く建築や、そこで育まれてきた文化に比べたら、自分の一生はきっと70、80年くらいだろうと。

それまでの私は、日本でおしゃれなものやトレンドなものを追い求めていましたが、「本当に目指すべきものは、そんなものではない」と目が覚めました。同時に、日本文化のすばらしさにも気づいたの



辰本社7階にて 撮影：アック東京

です。若かったこともあり、それまでは新しいものや海外のものに価値を見出していました。しかし、日本のしっとりとした空気感や、優しさや厳しさを併せ持った人々。そういったものに、急に愛情を抱くようになりましたね。そのときの経験が、「エゴを追い求めすぎない」という価値観につながっています。

— 海外での生活を経験したことで、愛国心が芽生えたのですか。

上田：日本に帰ってきてからは、どのような思いを抱いていたのでしょうか。上田：帰国後は、「原点に戻ろう」という思いで設計を続けてきました。もちろん、新しいことをやるために、ときには「はずし」の要素を求められることもあります。ですが、それは基礎、つまり原点への理解があってこそ成り立つものだと思います。そして、何度も申し上げますが、混沌とした世の中であっても、その根底に流れている日本文化はすばらしいものです。その思いを、今後も伝え続けていきたいと思っています。

— 最後に、設計者と現場の力を合わせるために、心がけていることはありますか。

上田：2者の力を合わせるには、信頼関係がもっとも重要です。建物が完成するまでには、いろいろなトラブルが発生する場合がありますが、心と心が通じ合っていれば、さまざまな危機を乗り越えることができます。そんな関係性を築くうえで、コミュニケーションはなにより大事。行き詰まったときは誰かと話すことで解決策がひらめいたり、ふさがった気持ちが一気に晴れやかになり、前向きに物事を考えられるようになったり。私は図面を描くことよりも、そういったコミュニケーションを取ることを大事な要素とし、心がけています。

— 本日はありがとうございました。



過去作品にも表れる、エゴを求めすぎない美しさ「JJ-Garage」撮影：福澤 昭嘉

上田 智晴（うえだ ともはる）

- 1988年 大阪芸術大学 芸術学部 建築学科卒業
株式会社ヘキサ 入社
- 1992年 H/Pデザイン株式会社 入社
THX 一級建築士事務所設立
- 1997年 ヨーロッパ～中近東～北アフリカを巡る
- 1998年 帰国
- 2002年 有限会社上田智晴アーキテクト設立
- 2022年 「Therefore I am」出版

TOPICS/INFORMATION

「ZEN グループ 新入社員研修」 3月 ～ ZEN 伊豆山研修センター ～

毎年恒例のZEN グループ全体の新入社員研修が、今年もおこなわれました。

3月13日(水)～28日(木)の間、前半は熱海伊豆山研修センターで各グループ会社から講師を招いての座学や作務、後半は名古屋市にあるユニホー本社で施工現場見学や不動産知識などを学びます。

新型コロナウイルスの影響で中止していた、外部講師による研修や2年生による振り返り研修を4年ぶりに開催。外部講師として、弊社から

代表の岩本、顧問の名古屋、社外取締役の羽田が訪問し、建築における基礎知識や、経営目線での社会人としてのあり方などを講義。その様子取材させていただきました。

別部屋では、2年生による1年間の振り返り研修として、社会人となった1年間が自身にとってどのような経験と知識を身につけたか、「仕事」と「作業」の違いはどのようなもののかなどを振り返り、今後のビジョンなどを見つめ直す研修をおこないました。



研修センター前で朝礼をおこなう新入社員と2年生

研修に参加した新入社員5名に、研修の感想を聞いてみました。

■A班：田中 佑采(たなか ゆうと) 研修を通して、今まで知らなかったをたくさん学ぶことができました。建築や不動産に関する基礎知識はもちろんですが、ビジネスマナーのよ



大ホールにて研修をおこなう

うな学問としては無い知識を、入社前に教わる機会をいただけて幸いでした。また、作務では研修センターの裏手にある山道を5、600m程整備しました。1番実感したのは、最初に作業全体の見通しを立てる、ということの難しさでした。結果として作業は少し早めに終わることができましたが、今後はそのような見通せる感覚を身につけたいと思います。



経営者目線で各社の特徴を語る岩本

■A班：BATSUKH JAMUKH (バトスフ ジャムハ)

本研修ではチームワークの大切さを感じました。座学では今まで知らなかったを学べた上に、初対面の人としっかり挨拶ができるようになりました。作務ではアスレチックの道路の掃除作業を行いました。作務は想像していたより大変で何度も挫けそうな時があり、その度にA班の全員と何度も乗り越えてきたことで仕事のやり甲斐を感じる事が出来ました。他のチームの人達とも仲良くなれて非常に良かったと思います。研修で学んでことを活かしてもっと頑張っていきたいです。

■A班：高橋 諒(たかはし りょう)

研修を通して、これから社会人になる上で最も基礎となることを学ぶことができました。学生生活ではなかなか経験することのできない濃い時間を、同期の方々と共に過ごすことができたことは、自分のこれからの社会人生活に大きな影響を与えてくれると思います。この研修で学んだ

ことは、何年経っても忘れぬよう意識し続けようと考えています。また、他の会社の同期の人とも接点を持つことができたので、これからもコンタクトを取り、切磋琢磨していけたら嬉しいです。来年の振り返り研修も楽しみのひとつになりました。



講義を受ける辰の新入社員

■B班：齊藤航希(さいとう こうき)

私は研修生全体のリーダーを務めさせていただき、個性的なメンバー

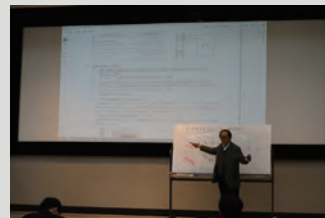
総勢26名をまとめていくことに対し、役職経験の浅い自身にとって難しいと感じる場面が多かったと感じました。ですが、指導員の方々や、補助してくれたサブリーダー、そしてなにより研修生の一人ひとりが支えてくれて、チームワークの有難み、大切さを実感しました。この研修で得た多くのものを活かし、これからの業務に努めていきたいです！



建築についての設問を解く

■C班：TIN KO KO MAUNG (ティン コ コ マウン)

上司、同僚をはじめ、お客様、お取引先と良好な関係を築くためにはコミュニケーションによるビジネスマナーが大事だと思っており、本研修ではそのビジネスマナーを実践できました。さらに、建築の基礎知識、今まで全く知らなかった不動産の基礎知識といった、様々な知識が身につけられました。作務では「工事」として任せられたお陰で、工程の考え方や協調性を学ぶことが出来ました。何もかもが勉強になり、研修中は本当にいい経験をさせていただきました。



社外取締役 羽田による建築知識の講義

「THE CITY 神宮前口ハス通り」新築工事 安全祈願祭

2024年3月15日



人通りの多い口ハス通りにて、安全に情熱をもって建築いたします。

構造/規模: RC造/地上3階
用途: 店舗
設計: 09.design
施工担当: 伊藤・柴道(池上チーム)
完成予定: 2024年12月

「(仮称)神宮前プロジェクト」新築工事 上棟式

2024年3月13日



近隣様のご協力のもと、引き続き安全第一で工事を進めてまいります。

構造/規模: RC造/地上5階
用途: 店舗・専用住宅
設計: 株式会社MMAAA 一級建築士事務所
施工担当: 堀内(池上チーム)
完成予定: 2024年8月

編集後記

・今年は暖冬の影響で過去10年で最も遅い桜の開花となりました。新生活をスタートさせる方や新学期・入学式には満開の桜に迎えられた事でしょう。気持ちも晴れやかに、初心を忘れず日々の業務に取り組みたいですね。

(株)辰通信 Vol.289 発行日 2024年4月10日
編集人: 本間夏来/村上由衣/土屋祐一郎 発行人: 岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。

バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

